

小川和彦

香 川銀行専務取締役を退任後、経営担当の非常勤理事として香川大学に迎えられた小川和彦氏。剣道3段の腕前を持ち、香川銀行時代には、何より行動力を重視した小川理事こそ、未だ衰えぬ気力で香川大学の経営を支えている人物です。

小川理事は香川大学経済学部OBでもあります。学生時代は部活に明け暮れていたそう。42年前、剣道部のキャプテンとして香川大学を四国インカレ大会初優勝に導きました。「でも大学卒業の時は、当時の経済学部155人中150番でしてね。てきの悪い学生でしたよ」。

しかしながら、卒業後は香川銀行に就職し、常務総合企画本部長などを経て専務取締役を務めるなど、輝かしい経歴を残しています。

この銀行員時代のモットーが「業績は行動に比例する」という自作の言葉。支店長だった時には支店訓としてこの言葉を用い、営業本部長の時に、色紙に直筆して全支店に送ったそうです。

「何もしなければ何も起こらない。これは内勤も外回りも同じです。自分で考え

て行動を起こせば、必ず何らかの結果が生まれます。だから、まずは行動です」。その行動力はプライベートでも発揮されました。社会人になってから、2度のアキレス腱断裂により剣道をあきらめることになっても、銀行内で「山の会」発足に参加。日本第二の高峰・北岳をはじめ、多くの名山の登山を経験しています。

そして現在は香川大学の理事として、先ほどの言葉を実践しています。「今の世の中なら考えて動く」考動(こうどう)なのではないかとは思いますが、言いたい本質は同じです。大学も地域貢献を標榜するなら、教員も学生も積極的に現場へ出て、学ぶことが大切」と話します。国立大学が国立大学法人に移行して、難しさを増した大学運営。小川理事に期待されているのはその経営の舵取りです。「まだまだ改善の余地が多くありますがシステムや大学教職員の意識改革は、大分進んできていると思っています。また、逼迫しつつある財政面の充実を図るため、現在の香川大学創立60周年に向けて、香川大学

支援基金の設立が進行中です。だから今は準備でかけず回り回っていますよ」。その熱意と行動力は、場所を大学に変えても変わらないのです。

さらに、小川理事にはもうひとつの顔があります。それが香川経済同友会メンバーとしての顔です。香川経済同友会は、地元経済人が香川県などに対し、様々な提言を行うことで、地域の活性化を目指している組織。2008年春まで2年間その代表幹事であった小川理事は、3年前、財政金融委員長時、香川県に対して県財政の立て直しに関する大胆な提言を行いました。これは全国的にも異例のことで、批判も含め大きな波紋を呼んだそうですが、「元銀行員としての立場を考えては何もできない。何とかなると思っただけでしてしまいました。しかし今では皮肉にも、香川県の人事委員会委員になった」と笑います。

立場は変わってもそのスタンスは同じ。悲観的にならず、前に向かって行動を起こす小川理事。ケガで剣士としての道は閉ざされましたが、心の中の剣が折れることはなさそうです。

PROFILE

おがわ かずひこ
香川大学非常勤理事。
香川大学経済学部卒。
1967年香川銀行に入行。
常務総合企画本部長などを経て
2001年2月に代表取締役専務。
2005年6月香川銀行コンピューター
サービス株式会社社長に就任。現在は
同社顧問。2006年5月から2008年
5月まで香川経済同友会代表幹事。



モットーが書かれた色紙を手に。



農島岳3026m(1993.8.8)登頂。



大学時代の小川理事。



折れない剣を心に